

○ 猟師の言葉（鈴鹿郡）

高齢の猟師又は元猟師からの聞き取りにおいて、狩猟の対象となったイノシシ、シカを中心とした動物の呼び名のほか、猟に関係した猟師の言葉を採録した。

① 動物の呼び名

動物名	主な呼び名例
サル	アニー、オキヤクサン、カゴヤサン、ダンナ、ブランコ、ワカイシュー
タヌキ	ハチ、ハチダヌキ
アナグマ	シク、シクマ、シバ、シバダヌキ、ムジ、ムジナ
テン	全身が黄色：キテン、黒みがかった：クロテン、スステン、ドロテン
イノシシ	幼体：ウリ、ウリコ、成体：サンゾク、シソク、ゴソク、爪が斑で気性が荒い：ウリヅメ、シマヅメ
シカ	角なし：ボウズ、雌：ワスレ、短い角：ボンチ、枝のない角：ナガヅル、ズワ、ゴンボ、角の枝の状態：ニノマタ、サンノマタ、オオザン
カモシカ	アホ、シャー、ニク、ニクタ

※ こうした呼び名は、猟師の高齢化や減少により、細かい差異を持った呼び名から次第に失われつつある状況にあることが伺われた。

② 猟に関する用語

a) 「シシ」

「シシ」はイノシシを指す言葉であるが、「シシ道」や「シシ追い」という場合はイノシシだけではなくシカ等他の動物を含めて指す傾向がある。

b) 「シシ道」

山中にあるイノシシを中心とした山の動物の通り道を「シシ道」と呼んだ。

その他、シカが多く通る道は「シカ道」と呼ぶ場合がみられた。（鈴鹿市庄内地区）

c) 「シシ追い」

ア シシ追い

追いたて役の人（＝「せこ」）が犬とともに山に入り、イノシシを追いたて、落とし穴のある場所や鉄砲を持ち待ち受けている場所へ追い込んだりしてイノシシを捕獲することを「シシ追い」と呼んだ。

昔は少数の人のみが鉄砲を持っており、その人を中心に6人から7人でグループを組み、「シシ追い」が行われた。

イ シシ追いに使用する犬

シシ追いに使用する犬のうち、先頭をきって追いかけるとともにイノシシにかかっていく犬を「サキイヌ」と呼んだ。（他の犬の呼び名は特になし）

また、犬がイノシシを取り巻き、かかっているかずに吠えたてることを「シシをまいている」と言った。

ウ その他

- ・ イノシシやシカと言った大型獣を撃つ場合、銃弾として「シシダマ」を用いた。それには一つの弾丸として飛んでいく「イチガン」と9個に分かれて飛んでいく散弾である「ココノツ」の二種があった。
- ・ イノシシは解体後に骨が売れ、料理のだし取り用のがら炊きに使われた。（シカの骨は適さない）
- ・ シカの皮は業者が買い求めに来たが、イノシシの皮は使いようがなく処分された。

③ 内臓の呼び名

種別	心臓	肺	肝	胃	腸	腎
呼び名	シンゾウ, キモ	ワタ	キモ	イブクロ	ヒヤクヒロ	マメ

※ 「ワタ」はふわふわしていることから。

④ その他

当時、シカやカモシカは滋賀県側との境となる鈴鹿山系の尾根付近を中心に見られたのみであった。

※ 回答者

①及び④は各集落における高齢の猟師又は元猟師からの聴き取り結果から

②及び③は次の3名からの聴き取り結果から（聴き取り日：平成20年5月31日）

山川 文一 (T4) 亀山市関町市瀬

小林 勇 (S4) 亀山市安坂山町坂本

佐藤 勉 (T15) 鈴鹿市東庄内町